



みゆきレター



誠実と倫を胸に刻む

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。大学院・専攻科を修了された皆さん、修了おめでとうございます。教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また、今日まで物心両面で支えてこられた保証人の皆様におかれても喜びはひとしおとお喜び申し上げます。

本年度は本学開学30周年の節目に当たります。皆様は記念事業として完成したこの日新館で卒業式を迎える初めての学生になります。

日新館という名は中国古代の殷王朝を建国した湯王が洗面器に彫って日々の戒めにしたと伝えられる「荀日新、日日新、又日新」から命名しました。今日という日は昨日からの連続ではありますが全く新しい日の始まりでもあり、より良い日に向けて日々修養に努めねばならないということです。また、人生に失敗はつきものですが、毎日新しく可能性に満ちているのですから、物事に挑戦し、あるいは再挑戦するのに遅すぎることはないことを忘れないで頂きたいという願いを込めたつもりです。

さて、卒業式とは何でしょうか？卒業とは業を終えるという意味です。学生の本分は学びですから、小学校から始まり、大学までの16年間続けてきた学びが終了したという区切りの儀式ということが出来そ

うです。

しかしながら、むろん今日で学びが終わるわけではありません。卒業式を英語では、特にアメリカでは「Commencement Ceremony」と呼びます。Commencement、即ち「始まり」という意味です。卒業式は、学生時代という、知識を蓄え、心身を鍛える準備期間が終わり、これから長い、責任ある、挑戦に満ちた社会人としての人生という舞台の第2幕の始まりの瞬間であるということも出来ます。

第2幕に挑むに当たり、卒業生の皆さんに心してもらいたいことは何かと考えてみました。理念的なこと、実用的なアドバイス等色々思い浮かび悩みましたが、皆さんに大切にして頂きたい言葉を一つ挙げるとすれば、それは「誠実」ではないかと思えます。本学の御幸五訓を思い出してください。御幸五訓の五番目は「誠実と倫（ミチ）を、胸に刻み、夢の実現に挑む」です。倫（ミチ）は倫理の倫であり、ヒトとしての正しきです。全力を尽くす、良心に恥じない、約束を守る、嘘をつかない、等の人としての誠実さが夢の実現の前提となつていて、このことを忘れないで頂きたいと思えます。ともすれば競争社会では、自分に不都合なことは胡麻化したとか、うまく立ち回って楽をしたい等の誘惑に駆られることがあるかもし

れません。しかしながら、社会とは人間関係の上に成り立っているものであり、最も大事なのは人間として信頼されることです。そして信頼を生むのは誠実さだと思えます。不誠実な人間は結局は相手にされなくなりません。例えば就職した時、自分は口下手だから営業には不向きだと思おう人がいるかも知れませんが、口下手であっても誠意をもって接すれば必ず信頼され、成果もおのずと付いてくるものです。このことは、仕事だけでなく、友人、家族、社会すべての人間関係においても当てはまります。誠実さは自分自身の幸せにも繋がって行くのだと思えます。

人生という舞台の主役は皆さんです。皆さんにはだまし合いの世界ではなく、誠実と倫を胸に刻み、信頼し合う世界で、日々新しい気持ちで、堂々と生きて欲しいと願います。

令和七年三月二十二日

福山平成大学

学長 富士彰夫

「実社会に羽ばたいていく皆さんへ」



本日の令和6年度福山平成大学学位記授与式にあたりご挨拶申し上げます。卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご臨席の保証人の皆様にも心よりお慶び申し上げます。また、ご多用中にも拘わらずご来臨を賜りましたご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんがこれから羽ばたいていく社会は、国内外を問わず、不確実性という霧に包まれています。日本国内では、生産年齢人口の減少問題と地域間格差の拡大、地域の弱体化等起因する医療提供体制の確立問題、高齢化の進展と人生100年時代の到来等による社会構造・産業構造の変化など、様々な問題が山積しています。一方、海外に目を向けると、先進諸国においても既存の政治に対する不満や現状への閉塞感が高まり、大衆を扇動するような急進的かつ非現実的な政治思想であるポピュリズムが台頭していることが指摘されています。また、国家・民族間の紛争が未だに継続し、紛争の終焉が見通せない状況です。加えて、第二次世界大戦後の世界各国の共通原則であった「国際協調」と「自由貿易」という二大原則も揺らいでいます。さらに、新たなパンデミックの到来や気候変動がもたらす予想外の災害の発生への備えという課題の他にも、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる「カーボンニュートラル社会」の実現をはじめとする持続可能な開発目標(SDGs)の達成が地球規模で求められています。このように、国内外で不確実な時代の到来を迎えている今、持続可能な社会の実現のためには、多様性を秘めたアクティブな人材として活躍することが社会から求められています。皆さんにおかれては、今後の輝かしい人生を過ごすためにも、大学までに身に付けられた「自分で情報を収集して、自分で考える」というアクティブ・ラーニングの姿勢と知識・技術、取得された資格等、またデジタ

ル技術も活用されながら、持続可能な社会の創造に向け、ローカルにもグローバルにも活躍していただくことを心より期待申し上げます。

加えて、本日でたく卒業の日を迎えられた皆さんへの激励として申し上げたいのは、目の利益に囚われた安易な考えや行動ではなく、弛まぬ努力をする姿勢を大切にしてください。京セラとKDDIを創業して大企業へと成長させ、JALの経営再建も成し遂げた「経営の神様」である稲盛和夫氏の言葉をまとめ「誰にも負けない努力」という書籍では、稲盛氏の経営哲学の最も重要な根幹をなす「誰にも負けない努力をする」との意義と、組織を率いるリーダーあるいは今後リーダーになろうとする者の心構えが力強く説かれています。その一節を紹介させていただきますと、

「努力をして仕事を好きになる。本当に好きになったら、「誰にも負けない努力」ができる。そうして一生懸命に働く中で、創意工夫して仕事を進めるようになり、やがて素晴らしい成果ももたらされる。また、自分の魂を磨き、美しい心をつくっていくことにもなる。」とあります。

卒業生・修了生の皆さんは、これからの進路先で様々な組織に所属し、社会の一員として組織を発展させる役割を担っていきます。これらの長い人生において、皆さんに物心両面で豊かな人生を送っていただくためにも、誰にも負けない努力を通じ「揺るぎなく前進」されることを心より願っております。

そして福山平成大学の卒業生として、福山平成大学創設者の宮地茂先生が表明された「御幸五訓」、すなわち、

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する
- 一、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす
- 一、不屈の魂を養い、紐帯性を培う
- 一、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む
- 一、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む

という理念をこれからも胸に刻み、実社会に羽ばたいてください。本学在学中に得た恩師・学友との絆はこれからの人生において貴重な宝であり、同窓会を通じて交流を深めていただき、自らを発展させるための糧としてくださるようお願いいたします。そして、いつでも気軽にこのキャンパスに足を運び、恩師に元氣な顔を見せていただければと思います。卒業生の皆さんの活躍が、後輩諸君の一層の成長と学校法人福山大学の益々の発展に繋がるものと考えます。皆さんが学んだ福山平成大学は、令和6年度に開学30周年を迎えました。大学の創設に至ったのは、当地における若年人口の流出防止と定着促進のための魅力ある都市づくりとして、福山・府中広域市町村圏を構成する2市9町1村の市町村長、圏域の商工会議所会頭並びに教育団体及び社会福祉団体の代表者などからの大学設置に係るご要望と財政的なご支援の申し出を頂き、平成6年4月に開学し、本年度末迄に8千人に迫る卒業生・修了生が、地元経済界、産業界をはじめ、地域の教育、社会福祉、スポーツ、医療分野等を担う有為な人材として社会の一翼を担われております。どうか皆さんにも福山平成大学の卒業生としての誇りをもって、地域社会の発展に貢献する貴重な存在として活躍されることを心から期待申し上げます。

最後になりますが、これまで慈しみ育てていただいたご家族への感謝の気持ちを大切にしてください。ご健勝とご活躍を祈念申し上げます。いと激励の気持ちを込めて、ご挨拶とさせていただきます。

令和七年三月二十一日

学校法人 福山大学

理事長 鈴木省三

門出を祝して卒業生に贈る言葉

自信を持って前進

経営学部長 川久保 和雄



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。晴れてこの日を迎えられたことを、心からお祝いを申し上げます。

今、みなさんは新社会人として羽ばたこうと、それぞれの夢と希望に胸をふくらませていると思います。大学4年間に身につけた力を活用し、さまざまな困難を切り開いて、自信を持って前進していくください。これから新しい社会の主役としてのご活躍を期待しています。今後みなさんを待ち受けている社会では、重要な選択や決断を迫られる局面に何度も遭遇するかと思います。その時に迷って決断できず、せつかくの機会を逃してしまうこともあるかもしれません。また、よく考えずに安易な決断をしてしまい、後から後悔する可能性もあります。多くの局面で最良解を選択して、機を逃さず適切な決断を下して、悔いのない人生を送ってください。正しい決断・選択ができる決断力・判断力を培うためには、経験を積み重ねることと同時に、たえずまなく勉強を続けて、人間力を高めていくことが重要です。

将来の夢を持ち、その夢を実現するための目標・計画を立てて、勉強を続けましょう。若い時期にどれだけ勉強したか、どれだけ努力したかによって、その後の人生が決まるといっても過言ではありません。漫然と過ごしていると、時間はあっという間に経ってしまいます。どうぞ時間を大切に、充実した実りある心豊かな人生を送ってください。

今、社会は急激に変化しています。たとえばこの数年のAI（人工知能）の急激な発達には目を見はるものがあります。また少子高齢化も急速に進んでいます。今後10年後、20年後、30年後にはこの社会は一体どのようなものになるのでしょうか。現在では想像もつかない社会になっているかもしれません。

そのような社会では、あらかじめ正解が用意されている問題ではなく、予測が困難な問題に直面することも多いと思います。学生時代のように、教科書が決まっています。授業で先生が教えてくれるということはありません。ぜひ大学で身につけた力を活用して、正面から全力で取り組んで問題を解決していくってください。

私たちはみなさんのことを、これからも心から応援していきます。みなさんも母校である福山平成大学のことを時々思い出して、応援していただければ幸いです。

最後にみなさんの今後のご健康、ご多幸を心からお祈りします。がんばってください！

卒業生への祝辞

福祉健康学部長 古賀 一博



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんのご卒業を祝福するとともに、これまでの学びと成長に敬意を表します。また、本学での貴重な経験と努力は、皆さんの今後の人生において不可欠なものになると確信します。

皆さんが入学した時期は、ちょうどコロナ禍の最中であり、皆さんの大学生活の前半はまさにコロナウイルスとの戦いでした。私も大学教員として未だ経験したことのない厳しさに直面したときでもありました。

それゆえ、皆さんの学生生活は決して簡単なものではなかったでしょう。しかしながら、その困難に立ち向かい、挫折を乗り越え、学び続ける姿勢を保持続けたことは、皆さんの強さと成長を示しています。このことは、これからの人生において大きな自信となるでしょう。

また、この在学4年間を支えてくれた家族や友人たちにも感謝の気持ちを忘れないでください。皆さんの卒業の背後には、絶え間ないサポートと励ましをくれる人々がいたからです。その人たちの存在なしに、今日の卒業はあり得ません。どうぞ彼らへの感謝の気持ちを忘れずにいてください。

今回の卒業式は、大学生活のピリオドであると同時に、人生における新しい章のスタートでもあります。これから不確実な時代を歩むにあたり、どうぞ自分自身の力を信じて、勇気を持って前進していくってください。もちろん、成功は一筋縄ではないかないこともあるでしょう。しかし、学んだことを胸に刻み、自らの信念を貫き通すことで、目標へと進むことができるのです。

ただし、その際、決して自分のためだけでなく、周りの人々や公共の利益にも配慮する心を忘れないでください。誰かのために役立つこと、自分の能力や知識を分かち合うことは、喜びを倍増させることにもつながるものです。社会への貢献や共に生きる喜びを感じながら、周りの人々や社会全体との絆を深めていくください。

最後に、これからの素晴らしい未来に、皆さんの夢が叶い、目指す道の先には幸せと成功が満ち溢れ、人生の旅路が一層輝かしいものとなりますよう心からお祈りしております。

ご卒業おめでとうございます

看護学部長 木宮 高代



晴れの門出を迎えられた看護学部看護学科第15期生の皆さん、保証人の皆様から心からお祝い申し上げます。未知の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大学生活では多くの困難があったことと思います。そのなかで、第15期生の皆さんの自己の感染予防対策・健康管理の徹底をしながら勉学に取り組む姿は、まさに看護専門職の姿を映していました。

現在の日本は世界に先駆け超高齢社会となり、多様化する保健・医療・福祉に対応できる看護専門職が求められています。そして、その活躍の場は拡大し、役割の推進などが行われています。本学看護学部は教育理念のもと、皆さんは看護専門職に必要な知識と技術の習得、そしてそれを常に継続し続ける自主的な学びを行ってきました。

今、ここに質の高い看護・保健医療を実践する看護専門職として、第一歩を踏み出すこととなります。初めの一步は小さいかも知れませんが、社会で仕事をしていく中で、本学での学びで身につけられたことを誇りに、情熱と努力で培った看護学の知識や看護技術を活かしてください。そして、地域における医療、保健そして福祉向上のために自分の力を信じ、未来の可能性に向け挑戦し続けてください。

社会人として生きていく中で様々な試練や困難にあたることと思います。そのような時には、講義や演習、グループワーク、実習などでいつも励まし慰め合った仲間がいること、私たち教員が応援していること、そして思い出せる共有できる大学がここにあることを思い出してください。これからは、自分自身で決めた道の中で、自他ともに認められる存在となり、それを維持していくために、これから生涯にわたって自分で学び、自分で解決していくという自己学習、自己研鑽が継続的に求められます。時には戸惑うこともあると思いますが、そんな時こそ丁寧に時間をかけて取り組むことが真の看護専門職です。社会人としての実生活もはじまります。他人に依存することなく、自分自身の考えに基づいて行動してもらいたいと思います。さまざまな人々との関わりでは、自分の精神や感情を制御していくことも忘れてはなりません。常に患者さんの心に寄り添い、共感することを忘れないでください。何年かを経たのちに臨床現場で活躍されている皆さんと出会うことを楽しみにしております。

助産学専攻科の卒業生の皆さん、大学院修士課程看護学研究科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから看護専門職として看護学教育の発展に寄与されますことを期待するとともに、ご多幸をお祈りいたします。医療のスペシャリストは時代の技術の変遷が速く、少しでも勉強を怠ると取り残されてしまいます。ぜひ日々の変化に負けず、努力を毎日重ねて、社会の要望に応え世の中に貢献されることを期待しています。

四年間を振り返って

経営学科

佐々田 七虹



福山平成大学に入学してあっという間に四年の月日が経ちました。一年次は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業が中心となっていました。友人関係などこれからの学生生活に不安がありました。しかし、二年次からは対面授業や大学行事も行われるようになり、結果的に充実した学生生活をおくることができました。四年間の大学生活で一番印象に残っていることは、二年次に参加したベトナムへの海外研修です。それまで海外に行ったことがなく、学生の間に一度は行ってみたいと思っていたところ、数年ぶりに海外研修が行われると知り、友人と一緒に参加することを決めました。

ベトナム研修では、日本企業のベトナム進出やベトナムの経済状況、歴史・文化など様々なことについて勉強させていただきました。初めての海外で不安も多くありましたが、先生やガイドの方に助けていただき、学びのある楽しい五日間を過ごすことができました。不安なことでも、勇気を出して挑戦することは、社会に出てからも重要な力だと思うので、これからいろいろなことに挑戦していこうと思います。

また学業に関しては、資格・検定取得に力を入れ、四年間で約十個の資格・検定を取得しました。その中でも日商簿記検定2級には苦戦しました。ゼミナールや授業時間外にも先生にご指導いただき、一度落ちてしまったものの二度目の挑戦で合格することができました。これを強みとして、就職活動を有利に進めることができました。

大学での学びや思い出は、これからの人生の支えになると思います。四月からは社会人として、気持ちを切り替えて精一杯頑張っていきたいと思います。四年間ありがとうございました。

新しい挑戦をたくさんした4年間

健康スポーツ学科

高橋 茉弓



私は、養護教諭を目指すため福山平成大学に入学しました。4年前の4月4日、同じ学科に友達はもちろんおらず、不安の中、入学式に参加したのを今でも

鮮明に覚えています。そんな中、学科別オリエンテーションで出会った学生リーダーの先輩のおかげで不安な心が少し晴れ、その時に私も学生リーダーになりたいと思うようになりました。2年生から学生リーダーとなり、新入生のために、オープンキャンパスの手伝いなど様々な活動を行っていました。私自身、元々、表に出ることは得意な方ではなく、むしる避けてきました。それでも、養護教諭に必要な力を少しでもつけることが出来ればと思い、学生リーダーとして様々な経験をしてきました。大変な思いや辛いこともありましたが、自分が確実に成長していることを実感でき、違うことにも挑戦したいと思えるようになりました。

3年生では、学生リーダーとして主となって集団を引っ張るだけでなく、大学祭の企画運営、外部ボランティアなど多くのことを経験しました。4年生では、今までの経験を生かして、後輩たちを支える立場にもなりました。

この4年間で、大学を入学した当時の私からは考えられない程の様々な多くの経験をしたいと思います。4月からは、スポーツ健康科学研究科の大学院生として、養護教諭の専門的知識をさらに深めていこうと考えています。今の段階では考えられない壁も立ちはだかるとは思いますが、この4年間でたくさんさんの困難を乗り越えた経験を踏まえ、4月からあらたに大学院生として充実した学生生活を送り、2年後に活かせるよう、これから頑張っていきたいです。

四年間を振り返って

福祉学科

藤井 梨瑚



四年前の春、福山平成大学に入学しました。不安と期待を胸に始まった入学式では、四年間ともに、学び・支え合う仲間達、また、力になってくださる先生方と出会いました。四年間振り返ってみると、多くの学びや思い出がよみがえってきます。

スタートした大学生活では、毎日片道約二時間かけて通学をしました。そして、「介護福祉士」と「社会福祉士」の二資格を目指していたため限から五限までの日もありながら、休むことなく勉学に励みました。ここまで私が続けてこられたのは、一緒に苦楽を乗り越えた友人や、時に厳しく時に寄り添いながら指導してくださった先生方、温かく見守ってくれた両親がいたからだと思います。

大学生活で特に印象に残っているのは、一年の春から三年の夏まで行った、合計四回の「介護実習」です。地域・施設生活での高齢者の困りごとまた、それに対しての支援方法などを学ぶことができました。そして、実習指導者をはじめ、職員の方々からも丁寧なご指導をいただき、実りのある実習を行うことができました。

四年生が始まってからは、「介護福祉士」と「社会福祉士」の資格取得に向けて本格的に勉強を始めました。毎月行われる模試で実力を測り、友人と競い合いながら高めていきました。また、大学に遅くまで残り、友人と切磋琢磨し、知識を深めていきました。その成果もあり、本番では今までに無いくらい実力を発揮することができたと思います。

最後になりましたが、これまで支えてくださった先生方や家族、友人をはじめ全ての方々に感謝しています。まだまだ未熟な部分も多いですが、大学生活での経験を活かし、利用者にも仲間にも信頼されるような、福祉専門職になれるよう頑張っていきたいと思います。

大学生活を振り返って

看護学科

小島 愛梨



福山平成大学に入学し、長いようで短い四年が過ぎました。この四年間は、多くの方々との出会いと支えにより、人として成長することができた宝のような時間となりました。

一年次は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、遠隔授業を受けることになりました。遠隔授業ではありましたが、恵まれた環境で学業に専念することができたと実感しております。

二年次は、対面での授業が主となりました。友人や先生方と直接コミュニケーションを取れることや、演習により看護技術を高められることに喜びを感じたことを覚えています。秋には、御幸祭実行委員会の一員として御幸祭の準備や運営に携わりました。学年や学部を越えた繋がりは、多くの学びをもたらしてくれました。

三年次の前期は、保健師課程の授業が始まり、より広い視野と多様な視点を持つことの大切さを学びました。三年次の後期は、半年間の領域別看護学実習がありました。これまでの学びを統合させて実習に臨むことで、患者さんに必要な看護をスムーズに考えることができ、技術も向上させることができたため、特に成長できた期間だと感じます。何よりも、指導者さんや先生方のご指導、グループメンバーに支えられて乗り越えることができたと思います。

学年が進むにつれ専門性が増し、看護の面白さに魅了されていきました。今後は、地元である福山市の病院で急性期医療に貢献できるよう、感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきます。四年間を全力で走りきることができたのは、これまで支えて下さった先生方、家族、友人をはじめとした全ての皆様のおかげです。最後になりますが、皆様に心から感謝を申し上げます。四年間ありがとうございました。

大学生活を振り返って

こども学科

井上 鯉登



福山平成大学に入学し、あっという間に月日が流れ、無事に卒業を迎えることができました。入学当初は、新しい環境に慣れることで精一杯でした。また、新型コロナウイルスの影響で、不安や戸惑いを感じたことを学び、自分自身を成長させる時間となりました。特に印象に残っていることは実習と就職活動です。実習では、子どもたちと関わる中で、授業で学んだ知識を活かす難しさを痛感しました。子ども一人ひとりの個性や発達段階に応じた関わり方を試行錯誤する日々でした。最初は戸惑うことも多かったですが、指導してくださった先生方や子どもたちのふれあいを通して、保育のやりがいを実感しました。実習を終えたときには、大きな達成感とともに、保育者としての責任の重さも感じました。

就職活動では、大きな葛藤がありました。もともと保育者として働くことを目指していましたが、小さい頃からの夢である新幹線の運転士への思いが諦めきれず、どちらの道に進むべきか悩みました。保育の魅力を感じ、一方で、鉄道の仕事に挑戦したい気持ちも強くなり、最終的にJR西日本の採用試験を受けることを決意しました。面接では、自分の思いを精一杯伝えました。無事に内定をいただいたときには、大きな喜びと覚悟が生まれました。

この大学生活で、多くの経験を積み、成長することができました。保育者という道を選ばなかったものの、大学での学びや実習で得た経験は、今後の人生に必ず活かされると信じています。これから新幹線の運転士を目指して新たな挑戦が始まりますが、大学生活で培った努力する姿勢を大切にしながら、一歩ずつ前へ進んでいきたいです。

最後になりますが、これまで支えてくださった先生方、家族、友人をはじめ、多くの方々的心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

大学生活を振り返って 四年間のメッセージ



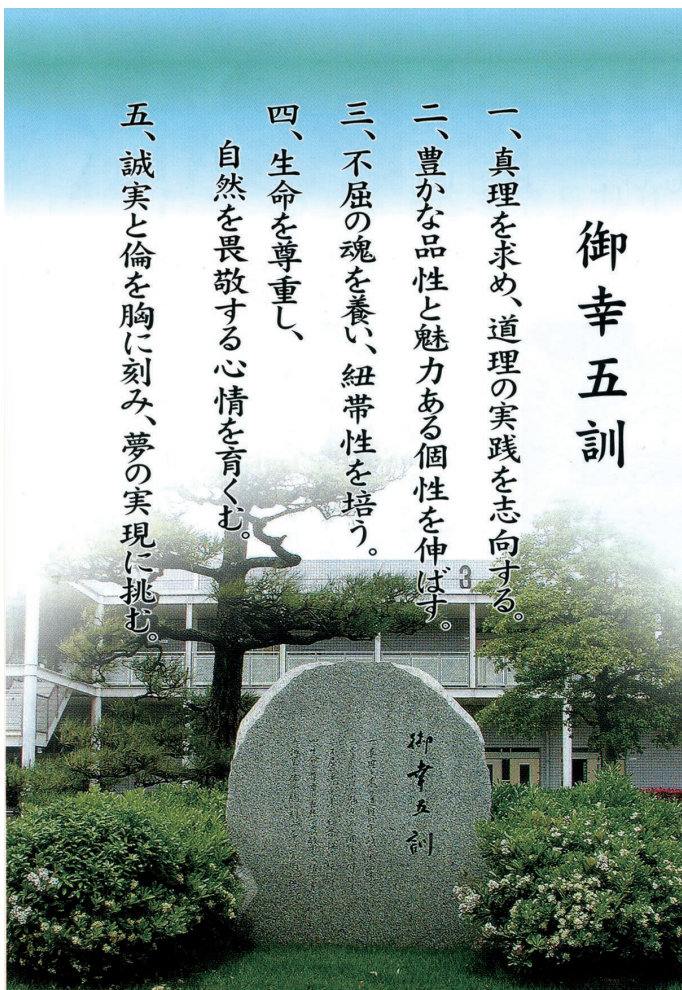
令和6年度 卒業者・修了者数

学 部	学 科	卒業者数
経 営 学 部	経 営 学 科	46名
福 祉 健 康 科 学 部	福 祉 学 科	24名
	こ ど も 学 科	34名
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 科	80名
看 護 学 部	看 護 学 科	80名
計		264名

研 究 科	専 攻	修了者数
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻	3名
看 護 学 研 究 科	看 護 学 専 攻	2名
計		5名

専 攻 科	修了者数
助 産 学 専 攻 科	9名

合 計	278名
-----	------



御幸五訓

- 一、真理を求め、道理の実践を志向する。
- 二、豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
- 三、不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
- 四、生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育くむ。
- 五、誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

令和6年度 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞に次の5名の学生が選ばれ、令和6年度学位記授与式において、表彰されました。

学長賞は「学業部門」において、特に優秀な成績を修めた学生に授与されるものです。

学 長 賞

経営学科 佐々田七虹

福祉学科 多保 季香

こども学科 細川 愛莉

健康スポーツ科学科 井上 佳菜

看護学科 小島 愛梨

編 集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発 行 福山平成大学

発行日 2025年3月21日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001 (代表) FAX 084-972-7771 <https://www.heisei-u.ac.jp/>